

第5学年社会科「買い負け！回転寿司から魚がいなくなる未来 ～これからの食料確保～」

学習指導者 半澤 友博

回転寿司の昔と今の値段を比較し、「なぜ回転寿司の値段が上がったのだろう」という単元の目標を設定しました。そして、その解決のために、輸送費や人件費の高騰、輸入先などについて調べていきました。その中の、「輸入の問題は水産物だけか」という疑問から、食料品全体の課題とそれらの解決の取組を調べ、これからの食料確保について考えをまとめていきました。

今はなぜ近くの国から水産物を輸入することができなくなってきたのだろう

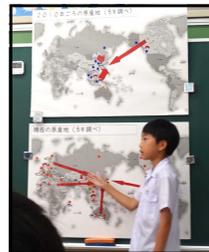
【見通し】

前時に発見した「昔は近い国から水産物を輸入できていてコストも少なかったのに、今はなぜ近くの国から輸入できなくなっているのか」という問題を想起し、学習課題を設定しました。そして、外国の人の立場になって考えることなど社会科のこつのだれが使えるか、解決の見通しを全体で共有しました。また、困ったときや、よりよい考えをつくりたい時には友達と関わるとよかったことを確認し、友達と共に課題解決していくという意識を高めました。



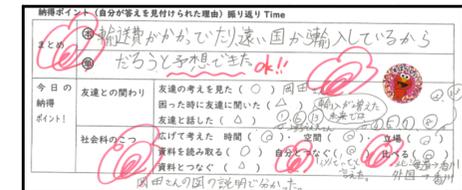
【行動】

社会科のこつや既習の資料などを基に個人で考えたり、友達と相談したりしながら考えをつかっていきました。そして、全体で交流し、近くの水産物の量が減少したことや、周りの国が水産物を輸入するようになり、日本が輸入できなくなっていることをまとめました。また、中国やタイの水産物輸入量のグラフを読み取り、外国の魚ブームと近くの国の経済力が上がったことで外国が水産物を輸入するようになり、日本が輸入できなくなっている「買い負けしている」ことを確かめました。



【振り返り】

社会科のこつと友達との関わり方を観点とした振り返りシートを使って、自分が答えを見付けられた理由（納得ポイント）について振り返りました。その後、納得ポイントについて友達とインタビューし合うことで、「〇〇さんが外国の立場から考えていたから、なぜ水産物が輸入できなくなっているか分かりました」など、今日の学習でなぜ答えを見付けられたのかという自己の学び方を明確にしました。



成果と課題

○社会科のこつや既習の資料を使いながら、主体的に問題解決する姿が見られた。また、振り返り場面では、友達と関わりながら、自分の納得ポイントについて振り返ることができ、次の学びにも生かそうとする様相が見られた。

▲「どこの資料から考えたの」など、教師の問い直しや消費者や外国の人の思いの資料を位置付けることで、水産物を輸入できなくなっている一因である買い負けについて、より深い理解につなげることができたのではないかと。

